

町長の定期便 第82回

金持神社、オシドリ観察小屋、たたら等
多くの皆さんに訪れていただける町です

元旦は晴れ間がのぞき、2日は雨、3日は雪がちらつく正月三が日となりましたが、総じて穏やかな年始となりました。例年のごとく金持神社への初詣でも、広い駐車場が満車になるほどの人出となり、オシドリ観察小屋も、県外から訪れた多くの人でにぎわいました。このように、多くの皆さんに訪れていただける町となりつつあることを実感したお正月となりました。

さて、昨年の暮れには、三谷出身で東洋大学名誉教授の谷口房男さんから著書「鵜池畜鯉碑考」を寄贈していただきました。故郷の歴史と文化を知るために、鵜の池湖畔に建つ石碑と碑文の読み解きを始め、各地に足を運び、ふるさとを思う研究が多岐にわたった500ページの大作となっています。素晴らしい本です。町図書館にありますので、ぜひ読んでみてください。

また、最近はたたらに対しての関心が増えたように思います。奥日野でシンポジウムなどが多数開かれ、参加してみますと、熱心に研究されている方のお話では、かつて中国山地が栄えた過去を思い起こし、ロマンに浸ることができます。日野町も都合山たたら、舟場山たたらをはじめとした多数のたたら場が眠っています。伯耆国たたら顕彰会の活動のもと、これらの資料を集めた「たたら楽校根雨楽舎」も、改修を終えた日野町公舎で再オープンする日も間近となりました。今後の活動が楽しみです。

(1月7日記)

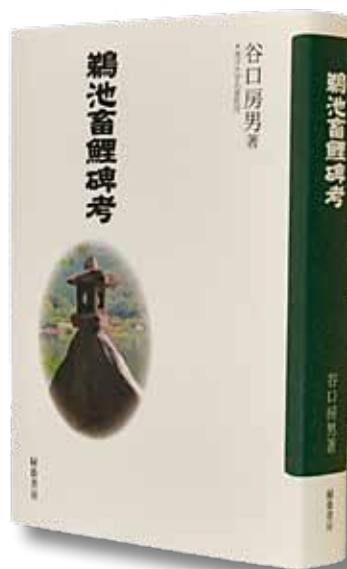
日野町長 景山 享弘

鵜の池の石碑から まちの歴史を探る

このたび、日野町三谷出身の東洋大学名誉教授、谷口房男たにぐちふさおさんが、『鵜池畜鯉碑考』うのいけちくりひここうを自費出版しました。

これは、鵜の池湖畔に建つ「鵜池畜鯉碑」の解説をきっかけに、建立の経緯や黒坂緒形家とのかかわり、黒坂鏡山城を築いた関一政などについて谷口さんが取材を重ねて書き上げた、およそ500ページにおよぶ読み応えのある一冊で、近世から近代にかけての日野地方の歴史・文化を知るうえで貴重な資料となるものです。

町図書館および町公民館にありますので、ぜひご覧ください。



「新年のご挨拶。今年もよろしく」
【撮影者】長尾真彦さん（岡山市）

オシドリ
にゅす
VOL.179

あなたも案内人

「観察小屋はどこ」と聞いたなら「僕の町にはオシドリが来る。ついて行ってあげる」と言った小学生がいたと、お客様は大変感心されていました。

「日野町内の食事処でオシドリを尋ねたら、車で先導してください」と喜んで話されたお客様もありました。

町民の皆さまのおかげで、日野町のイメージがアップしています。その方々はきっとまた日野町へお越しになることでしょう。一人一人の思いやりが大きな輪となって花開く町です。本年もオシドリ案内をよろしく願います。

【連絡先】オシドリグループ事務局

森田（電話72・0271）